

自動車リサイクル第49回合同会議ヒアリング

2020・9・25

ユーザーの視点から見た 自動車リサイクル制度



NPO法人
持続可能な
社会をつくる

元気ネット

理事長 鬼沢良子

くらし・地域から出るごみ（環境負荷）に 生活者・NPOとして責任を持ち 持続可能な社会づくりに貢献したい！

1996年
発足

家庭から出る
ごみ・資源・CO2

くらしの
化学物質

高レベル
放射性廃棄物

市民・企業・行政の
パートナーシップで解決をめざす！

くらしの課題として
地域で学び合う場づくり

各種リサイクル制度見直しに当り
マルチステークホルダー会議の開催
& 視察調査と提案

「電気のごみ」意見交換会
(資源エネ庁・地域と連携)

3R普及啓発、市民リーダー育成
(3R推進団体連絡会、企業と連携)

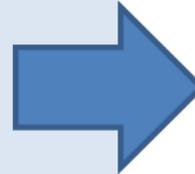
2007年から全国で100回の
地域WS・意見交換会を開催、
リスクコミュニケーションのファシリテーター
育成と共に、地域との連携を広げてきた

2011年から容器包装の3R普及啓発事業
雑がみ(2013年～)・家電(2017年～)・
自動車(2017～18年)・食品ロス削減・
リチウムイオン電池排出に関する連携事業等

東京2020とそれ以降の循環型社会
形成に向けた共創の場づくりと提案

自動車リサイクルに関する問題意識と活動

- ASRが横ばい
- プラスチック、ガラスのリサイクル
- 不適正保管、不法投棄が未だ
約5,000台ある
- 特預金の存在と用途
- リユース部品の使用
- 自動車リサイクル制度の認知
- 制度の理解から他の制度と資源循環、
消費者の役割を考える (SDGs12)



- 2014年のEU視察と
マルチステークホルダー会議
- NPOとして委員会で発言
《2017-18年 j-far事業》
- リサイクル施設見学と学習会
- 正しく理解し、伝える人を増やす
- 認知度調査 等

2年間の事業において、
インセンティブ制度の原資となる
特預金の存在と用途の説明に注力した

自動車リサイクル制度に関して知ることと自ら正確に発信することには大きな隔たりがあることから、意欲を持って正確に発信できる人材を増やして行くことが、今後の自動車リサイクルに関する周知には重要。

2018年6月に閣議決定された、第四次循環型社会形成推進基本計画では、2.7.3.において、循環分野における人材育成、普及啓発等の必要性を謳っている。

リサイクル制度見直しに向けた 視察調査とマルチステークホルダー会議

◆ EU視察調査(2014年 3か国 5都市 6組織)

- ・ドイツ《ドイツ連邦鉄鋼リサイクル処理企業協会(BDSV)、リユース部品店》
- ・オランダ《オランダ自動車リサイクルプラント、欧州自動車リサイクル協会(EGARA)》
- ・フランス《Galoo、環境エネルギー庁(ADEME)》



Plastic mixture ($1.1 < P < 1.3$)



◆ マルチステークホルダー会議 3回開催

全国の地域リーダーと共に実施する 体験型普及啓発のための研修①

◆ 2017年 川越市(メタルリサイクル株) 全国から20名 小冊子1,885冊の希望あり)

★主な質問のキーワード

- ・リサイクル料金を預託する自動車の種類 ・路上保管
- ・生産者責任 ・ASRの処分 ・特預金のユーザーへの返還
- ・リユース、リビルト部品の市場と品質保証
- ・行政代執行費用の回収 ・海外へ出た日本車の最終処分
- ・JARC情報システムの改善費用



★ 自動車リサイクル制度に関して新鮮だったこと

- ・リサイクル率の高さ ・リサイクル料金の流れ ・特預金の存在、使われ方
- ・利用者の役割分担 ・自動車会社自らの製造責任が感じられる良い制度

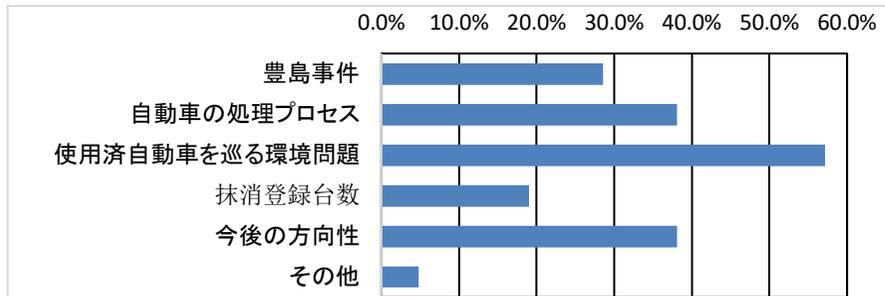
【全体】

- ・リサイクル料金を払っている人の関心が薄いのは残念
- ・**多面的な参加者の質問やコメント**も多岐にわたり、質問への応答も内容を深めるのに大変役立ち、**色々刺激された** ・「ESDアクティブラーニング」用の教材にしたい
- ・ネット情報等では知り得ない様々なことを学んだ ・様々な機会に紹介説明したい
- ・**資源循環の仕組みや有り方について深く考え、リサイクルシステムとその技術に信頼できた**
- ・電気自動車やハイブリッド車のリチウムイオン電池の適正処理とリユース市場

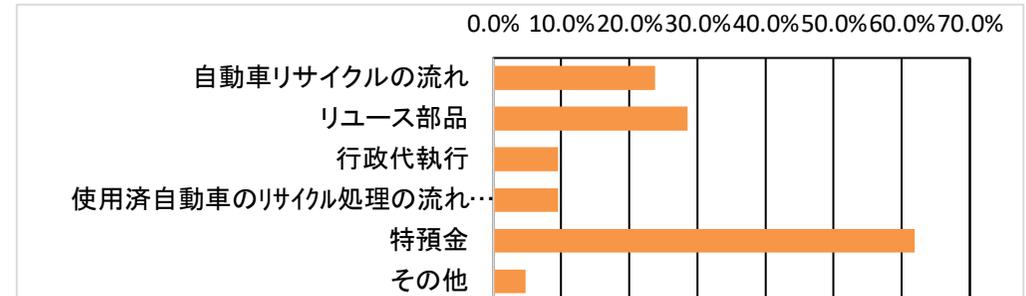
全国の地域リーダーと共に実施する 体験型普及啓発のための研修②

- ◆ 2018年 愛知県 (ニュー岩田(株)、いその(株)、豊田メタル(株) 17名)
北九州市 (西日本オートリサイクル(株)、北九州エコタウン 20名)

【講義】特に印象的・新鮮と感じた部分



【小冊子】特に印象的・新鮮と感じた部分



- ◆ イベントにて認知度調査、小冊子を活用するためのマニュアル作成
【3R推進キャンペーンイベント もったいないぞ日本！】

対象: 運転免許有の方(自家用車あり、なしで区別) 回答者数: 118名

Q1: リサイクル料金の預託... 自家用車あり約6割が「知っている」、自家用車なしは約3割

Q2: リサイクル料金の使いみち... 全体の8割以上が「知らない」(3部品)

Q3: リユース部品... 自家用車あり約86%が「知っている」、自家用車なしでも66%

Q4: 修理の際に、リユース・リビルト部品を使う... 使わない約5~6割

Q5: 特預金... 9割近くが知らない、使われ方には好意的

話す時間に対応
した提供情報
(15分, 30分, 60分)



制度と関連情報の中で知って欲しいことを 小冊子右上に1行吹き出して記載

- 不法投棄・不適正保管の数
- 離島からの海上輸送費8割を援助
- 年間の使用済み車両数
- 2023年には全車種が新冷媒
- 情報システムの規模
- 平均使用年数
- リユース部品の割合/台
- リユース部品の使用
- 激甚災害の準備費用
- 豊島の処理年数と費用
- 行政代執行の累計金額



不法投棄・不適正保管がまだ5,589台もあるんだよ(2016年3月末)



- 犬のセリフを、1ページにまとめて教習所等で配布し簡単に説明できたら、内容の普及が図れる。
- 車販売店に置いてもらったら良いと思う。
- 目で見て全体像が理解できるようになっていて、「自動車のリサイクル」がより身近に理解できた。
- 一口知識が、押しつけがましさが無くエコ活動時にメモとして便利、主催者も受講者も使えるよいアイデア。
- 見開きの内容は要点をわかりやすくコンパクトに収められおり、人に伝えられるので早速活用したい。
- いつもバッグに入れて記入できるので伝えた記録も残せる。
- 各ページ1行ずつのコメントは「はっ」と思うことが多い。
- 「引取時預託」や「特定資産残高」などシステムを知らないと分かりにくい用語。
- 「新冷媒」「行政代執行」はなじみがない。

■1行のポイント吹き出しは、短文で効果的、意味や背景を更に知りたくなった

➡意識が変わり行動にも変化が表れ、情報発信する意欲も大いに喚起された

気づきや感想（地域事務局）

	開催前		開催後
気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・自り制度についての知識・情報・関心はある程度もっていた。 ・自動車製造に関連する事業者が多々存在する愛知県という地域の特性を特に意識していなかった。 ・持続可能な社会を形成していく上で、何が重要か特に意識していなかった。 ・募集は知的好奇心の旺盛で地域のつながりが多いと思われる方に声掛けしたが、エコタウンを見学した方、エコタウン内に自動車リサイクル工場があることを知っている方は、ほとんどいなかった。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・誤解していたこと、気づいていなかったことが多々見付き、関心が高まった。 ・自動車製造に関連する事業者が多々存在する愛知県に居住していることから、 ⇒ 地域循環共生を推進する上で、この地域の特性とその役割を今後も考えていく重要性に気づいた。 ⇒ ・持続可能な社会を形成していく上で、自分が知り得たことは大変重要なことであると認識した。 ⇒ ・エコタウンという「地域資源」を活かしきれていないことに気がついた。また、自動車リサイクルの制度について知っている方は、ほとんどいないことがわかった
行動・意識の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車リサイクル制度の仕組みやポイントについて、一定の興味は持っていた。 ・自動車リサイクル制度のポイントを正確に理解するための特段の行動はしていなかったし、機会もなかった。 ・自動車の部品の素材や使用後のリサイクルについて特段の興味はなかった。 ・ユーザーとして、使用済車とリサイクルシステムの今後や資源循環に対する責任について、特に考えていなかった。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・自り制度のポイントを正確に理解し、落とし込んで消化すべく、関連資料を進んで読み、webサイトなどにも目を通し、頻繁に閲覧するようになった。 ⇒ ・自動車の部品の素材や使用後のリサイクル方法等に興味を持った。 ・ユーザーの一人として、使用済自動車は適切な資源循環が行われるべきと考 ⇒ えるようになった。 ・ユーザーの一人として、資源循環に対する責任が明確に芽生えた。 ⇒ ・購入時にリサイクル料金を支払うことは、資源を有効利用するために消費者として当然であると考えようになった。
発信・普及	<ul style="list-style-type: none"> ・人に伝えるということについて、特に考えはなかった。 ・自動車リサイクルに関する意見交換会等を特に意識していなかった。 ・見学会・学習会に参加したことはあったが、事務局としての経験はなかった。 ・参加者募集の際、工場見学会に興味を示す方が多かった。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・学習見学会に参加したことを他の人に伝えることが、役割と認識した。 ・このことを一人でも多くの人に伝えたい、多くのユーザーが自動車リサイクルにもっと関心を持つべきと考えるようになった。 ⇒ ・機会があれば、自動車リサイクル事業者や担当行政官との意見交換会等に関わりたいと思うようになった。 ⇒ ・学習見学会の準備、運営等について、学ぶことができた。事務的なことから参加者への配慮まで、とても勉強になった。 ・開催後に、またあのような勉強会はないのかなどという声が寄せられ、多くの方が見学と学習の機会を希望していることがわかった。

視察や体験型研修会から見てきたこと

- ① 購入時にリサイクル料金を支払うことは、資源を有効利用するために消費者として当然であると考えられるようになった。（スライド8より）
- ② 上記の感想はとても重要。工場見学と勉強会で、意識が変わり、通常から情報発信の場を持っている人は、その機会を活かし自ら発信する行動に至っている。
- ③ 海洋プラスチックごみや自然災害の多発等で、一般消費者の環境に対する意識や、資源循環の重要性の認識が高まりつつある。
- ④ 自家用車を所有していなくても、自動車の恩恵には、ほとんど全ての人が浴していると言える。購入時に「預託」する制度があるのは日本とオランダだけ。制度はうまく回っているが、素材の多様化に対する対応と更なる発展。
- ⑤ リサイクル料金が、3品目のリサイクルに使われ、自動車のリサイクル率は99%であることや、預託金で、不法投棄や東日本大震災の番号不明車の処理に使われたことを知ることで、リサイクル料金の使われ方と制度の有効性に関して納得する。
- ⑥ 工場見学と勉強会を同日に行うと、意識の変化が起こり行動の変容につながる。その際に、専門家の説明と一般市民の理解の間を取り持つ人材を育成し、増やす必要がある。研修を受けるための支援制度が必要。個人任せでは難しい。
- ⑦ ユーザーが自動車リサイクル制度をよく知ることで、循環型社会形成へ貢献しているという意義を感じられる。
- ⑧ 近年の自然災害による被災自動車増加への対応に、各地の声と好事例をアップデート。